

食いしん防災コミュニティ部会がいく！

(第38回 2021年7月)



世の中には「犬派」と「猫派」がいて、永遠の争いを繰り広げている。(近年は「猫派」の方がやや優勢なようだ。) 同様に「そば派」vs.「うどん派」の果てしない戦いも続いている。もっともたいていの人はこちらも好きなので、さほど深刻な争いにはなっていない。かく言う食いしん防も両方とも好きだ。でもそれじゃ話が進まないの、ここではとある見地から論戦に一石を投じてみることにする。

まず蕎麦であるが、一流店で食べるざる蕎麦は、文句のつけようがない美味しさ！十割蕎麦はもちろん、七割くらいでも抜群に美味しく感じる。聞くところによると、蕎麦の実には完全食品に近く、人間が必要とする栄養素のほとんどが含まれているのだとか。つまり天ぷらとか肉などの具を加えなくとも、十分に食事として成り立つのだ。

蕎麦にこう訊いてみたらどうなるだろう。

「あの一、蕎麦さん。立ち食いソバやお湯を注いで3分のカップそばもあなたの仲間ということでもいいでしょうか？」

フンと鼻で笑った蕎麦からは、こんな答えが返ってきそうである。

「あいつらはね、蕎麦粉の含有量が2～3割しかなくて、ほとんどが小麦粉なわけですよ。少なくとも5割以上でないと、蕎麦と名乗ってほしくないね。ちゃんとした職人が打ったものしか、正式な仲間とは認められないなあ」

蕎麦はエリート主義を誇っているのである。



それにひきかえ、うどんはどうか。

「わしらは小麦粉だけで栄養も足らんけんね、具の手助け大歓迎よ。お揚げ、天かす、山菜、わかめ、かき揚げ、えび天、牛肉、何でもきてや。立ち食いもどん兵衛も赤いきつねも、みんな仲間じゃけん！」

うどんは単独では栄養が足りないという欠点を抱えているために、寂しがり屋なのである。誰でもウェルカムなのである。



そういえばうどんの種類はやたら多い。様々な具とコンビを組んだかけうどんやざるうどんの他にも、こんなものがある。カレーうどん。鍋焼きうどん。焼きうどん。ぶっかけうどん。サラダうどん。鍋のシメに投入されるうどんは最高だ。まさに百花繚乱！

地方ならではのメニューも豊富だ。名古屋のきしめん、味噌煮込みうどん。三重の伊勢うどん。秋田の稲庭うどん。京都の俵屋うどん。津山のホルモンうどん。長浜ののっぺいうどん。まだまだあるぞ。全国各地にあるご当地うどんは、どれも個性的で美味。

うどん界にもエリートがいる。言わずと知れた讃岐うどんだ。香川県には超個性的な

うどん店がたくさんある。値段はリーズナブルでありながら、とてつもなく美味しい。

食いしん防のお気に入り、宇多津にある「おか泉」名物ひや天おろし。コシのある冷たい麺に熱々揚げたての天ぷらがドーン！ 大根おろしとつゆがドバッ！ すだちがキュッ！ もぉ、ほっぺた落ちまくり。うどんのチャンピオンだ。

これからも、まったく新しいスタイルのうどんが生まれ続けるに違いない。これぞ多様性、ダイバーシティの理念に合致していると言えるだろう。うどんバンザイ！

さて、今日の昼は蕎麦が食べたい気分なので、セブンイレブンのざる蕎麦にしようか。



これがひや天おろしだあ！

TOPICS

☆「災害対応シミュレーション」のワークショップを体験！

「災害支援市民ネットワークしが」の令和3年度1回目の研究会に参加してきた。

まずは6人ほどのグループに分かれ、特別支援老人ホームの夜勤職員という設定で、真冬の深夜に震度6強の地震が起こった直後の3時間、どのような対応をするかの机上シミュレーション（模擬訓練）を体験した。50人の入居利用者がいる施設で、夜間の職員が5名。発災直後に近くに来て駆けつけてくれた職員3名も含め、8名でどう行動するか。

利用者の安全確保（広い部屋まで移動させる）をし、不安を鎮める。停電に備えて明かりを確保する。真冬なので防寒対策をする。情報収集と（助けを求める）発信をする……

3時間のうちに8人でこれだけのことをしなければならない。「うわ、とても手が足りへんな」という話になった。

続けて、災害への備えとして必要な「事業継続計画」についての講演を聴く。多くの人が利用したり仕事をする施設では、災害が起きた時にどう対応するかの計画や、そのための事前の備えをする必要がある。今はまだ事業所が対象だが、自治会やまち協などにも求められることになる。

講演では「誰も取り残されない防災」という概念も教えられた。湖東地区においてもぜひ取り入れていかねばならないと強く感じた。詳しいことは改めて！



☆東近江市「防災・減災のつどい」

蒲生のあかね文化ホールで市主催の「令和3年度防災・減災のつどい」が開かれ、食いしん防も参加してきました。

市長のあいさつに続いて、蒲生まち協ひだまり部会（防災部会に相当）の事例発表。防災キャンプの実施など、さまざまな取り組みをしておられます。うーん、湖東地区も負けずに頑張らなきゃ！

さらにその後は「地域防災に必要なもの」と題した講演を聴く。兵庫県立大・阪本教授の熱血トークに眠気も吹っ飛ぶ。ここ数年に起こった実際の災害を題材に、住民の避難行動と心理を詳しく分析。1人の犠牲者も出さないためにはどのような取り組みが必要か、コロナ禍における対応など縦横無尽に語りつくされた。

出席されていた各地区の自治会長さんの中にも、防災に対する意識を改められた方が多くおられたのではないのでしょうか。「滋賀は災害が少ない安全な県だ」なんてのんびり構えていらっしゃいませんか！



←熱血阪本教授！
（場所は違うけど）

今後の活動予定

- 7月20日 「湖東地区防災ネットワーク」全体会
- 8月24日 「いこいこ広場」防災カードゲーム大会
- 26日 「災害支援市民ネットワークしが」研究会
- 31日 「いこいこ広場」防災食作りに挑戦
- 9月 5日 東近江市総合防災訓練
- 10月28日 「災害支援市民ネットワークしが」研究会

※ 出前講座の申し込み受け付けます！

● 勝手にQ&Aコーナー

Q：「事業継続計画」って、これまでの「防災計画」とどう違うんですか？

A：おおっと、鋭い質問ですね。基本的な体裁を整えるだけでもOKだった防災計画とは違って、「事業継続計画」は**地域や施設の実態に応じた設定**が求められます。また、**他団体・地域との連携**等も明記しなければなりません。つまり見本の名前や日付だけ変えたのじゃダメってこと。

Q：えらくうどんの肩を持ちますね。香川県からお金でももらってるんですか？

A：もらえるものならもらいたいですけど、食いしん防を買収しなくてももうどん業界は安泰です。

楽しい質問、お待ちしております！

（文責：こじまっちょ）

